

「ケサランパサランを作る(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

2年生でも上手にできた、スズランテープの「ケサランパサラン」。さて、一定時間、うまく空中を飛ぶことができるのだろうか？

子どもたちは、最初手で高く投げあげて遊んでいたが、次第に下から息を吹きかけて飛ばす術を思いついた。自分もやってみたが、これが面白い。



「息を吹きかけた一瞬」 子どもの弱い息でも、簡単に飛ばすことができる。2人1組で遊ぶと面白い。



「育ちの良い個体」 天井まで軽々と飛んでいった。

何度も飛ばして遊ぶうちに、良く飛ぶもの(滞空時間が長いもの)と、あまり飛ばないもの(すぐに落ちてきてしまうもの)があることに、子どもたちは気づいた。滞空時間が長いものの特徴は、スズランテープをできるだけ細く割いたものだ。そうとわかれば、子どもは「研究熱心」になる。



写真は、「ケサランパサラン研究所」いろいろな長さ、いろいろな太さのものを作って、飛び方のちがいを調べる。たかがスズランテープ相手に、ものすごく真剣に取り組んでいた。楽しい活動だった。

【子どもの絵だよりから】

「このあいだの理科の時間(子どもたちは勝手にそう呼んでいる)に、けせらんぱせらん(ケサランパサラン)をつくりました。すずらんテープをむすんで、ゆびでほそくします。ほそくすればするほど、よくとぶやつができます。わたしのは、いきをフットかけるだけで、てんじょうまでとんで、ゆっくりおりてきました。すごくいい、けせらんぱせらんが、四ひきできました。わたしは、しなない(死なない)ように、たいせつにかばんに入れて、家につれてかえりました。おもしろかったので、また作りたいです。」